

COVID-19感染拡大と大阪府の口腔がん初回治療患者数と初回治療時の状況の変化

○小山史穂¹⁾ 田淵貴大¹⁾ 森島敏隆¹⁾ 梶原麻里¹⁾ 西村奈穂²⁾ 青木健剛³⁾ 西尾美奈子⁴⁾ 大塚倫之⁴⁾ 石橋美樹²⁾ 宮代勲¹⁾

¹⁾ 大阪国際がんセンター がん対策センター ²⁾ 大阪国際がんセンター 歯科 ³⁾ 大阪国際がんセンター 頭頸部外科 ⁴⁾ 大阪国際がんセンター 腫瘍内科

【背景】

- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の院内感染を恐れた医療機関受診控えがあったことが報告されている¹⁾
- 地域住民を対象に診療科別の受診控え意向について検討した先行研究では、他科に比較して歯科の受診控え割合が高かった²⁾
- 医師よりも歯科医師による発見が多い口腔がん³⁾では、初回治療患者の件数推移や診断時のがんステージなどに変化があった可能性があるが、日本からの報告は我々の知る限り存在しない

1. Nogami Y 2022
2. 小山史穂ら, 2022
3. Carter, L. M. et al. 2007

《本研究の目的》

大阪府内の口腔がん初回治療患者について COVID-19流行以前の2019年と 流行期の2020年とを比較する

【方法】

- 令和3年度大阪府がん対策基金企画提案型公募によるがん対策貢献事業として、大阪府がん診療連携協議会を構成する67のがん診療連携拠点病院等のうち賛同を得られた66病院より収集した院内がん登録およびDPCの情報（A cancer registry-based study on the impact of COVID-19 on cancer care in OSAKA; CanReCO）→本研究では、院内がん登録部分を使用
- 2019年と2020年のそれぞれ1年間の口腔がんの初回治療患者（症例区分：20&30：診断は自施設、他施設のいずれかで初回治療を自施設で行った者）を集計
- 年齢、性別、府外からの来院、詳細部位、診断時のステージ、診断から手術までの期間を比較
→カテゴリ変数はカイ二乗検定、連続変数はt検定
- 口腔がんの定義は
舌(ICD-O-3: C02.0, C02.1, C02.2, C02.3)
歯肉(ICD-O-3: C03.0, C03.1, C03.9)
口腔底(ICD-O-3: C04.0, C04.1, C04.8, C04.9, C05.0)
その他(ICD-O-3: C00.3, C00.4, C00.5, C00.6, C00.8, C00.9, C06.0, C06.1, C06.2, C06.8, C06.9)

【結果】

- 初回治療患者数は2019年814件、2020年656件と19.4%減少していた

図. 月別の口腔がん初回治療患者数

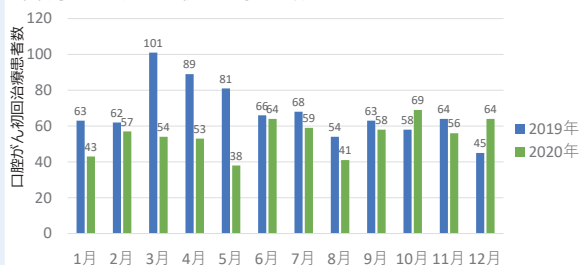


表. 口腔がん初回治療患者の比較

	2019年		2020年		p-value
	n	%	n	%	
合計	814		656		
年齢 (平均)	69.11		69.27		0.581 ^a
性別					0.459 ^b
男性	476	58.5	371	56.6	
女性	338	41.5	285	43.4	
居住地					0.375 ^b
大阪府内	757	93.0	602	91.8	
大阪府外	57	7.0	54	8.2	
詳細部位					0.073 ^b
舌	425	52.2	326	49.7	
歯肉	211	25.9	173	26.4	
口腔底	89	10.9	99	15.1	
その他	89	10.9	58	8.8	
診断時のステージ					0.356 ^b
ステージ0	75	9.2	45	6.9	
ステージ1	204	25.1	168	25.6	
ステージ2	184	22.6	149	22.7	
ステージ3	112	13.8	80	12.2	
ステージ4	185	22.7	164	25.0	
その他	54	6.6	50	7.6	
手術症例数 合計	676		546		
診断～手術 (日数・平均)	31.26		27.69		0.003 ^a

^a t検定
^b カイ二乗検定

- ◆ 3-5月の第1波では2019年が271件なのに対して、2020年が145件と約半分になっていた。

- ◆ 特に5月の減少率は53.1%と高かった。

- ◆ 年齢、性別、居住地、詳細部位、診断時のステージは2019年と2020年とで有意差が認められなかった。

- ◆ 診断時のステージでは、有意差はなかったものの、ステージ0の割合が2019年の9.2%から2020年の6.9%へと減少しており、ステージ4の割合が2019年の22.7%から2020年の25.0%に上昇していた。

- ◆ 診断～手術の日数は2019年が31.26日なのに対して、2020年が27.69日と有意な短縮が認められた。

【考察】

- 2年間の比較で、初回治療患者数は減少していた。→3-5月の減少が大きいことから、緊急事態宣言や外出自粛の影響などが考えられる。
- 年齢、性別、府外からの来院、詳細部位に診断年での有意な差はなかった。→COVID-19の重症化リスクの高い高齢者の来院割合が減少することや、府外からの来院割合が減少していることはなかった。

本研究の強み

- 単施設での報告ではなく、大阪府66病院のデータを使用して、COVID-19前後の口腔がん初回治療患者について検討を行った。

- 診断～手術の日数は2019年が31.26日なのに対して、2020年が27.69日と有意な短縮が認められた。→2020年にはCOVID-19の感染対策など、医療機関には多大な負担があったにもかかわらず、初回治療患者数が減少したこともあって、診断～手術までの日数を減少させていた。オランダでの先行研究でも同様の結果が示されていた⁴⁾。

4. Metzger, K. 2021

本研究の弱点

- 単年ごとの比較であるため、2019年に特徴的な変化が生じているとCOVID-19による影響ではないものを測定している可能性がある。

【結論】

口腔がん初回治療患者数はCOVID-19流行以前の2019年に比較して、
流行期の2020年で19.4%減少していた。診断～手術の日数も有意に短縮していた。